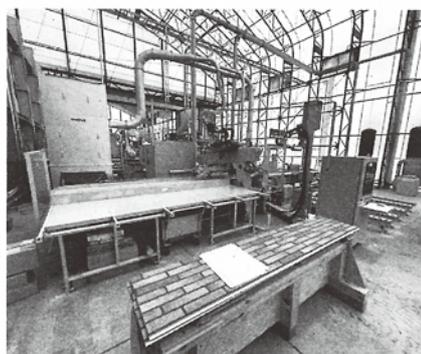


プレカットの生産性を向上

柱加工機を入替え、サイディング加工機導入

村上木材

村上木材(大阪市、佐原謙次社長)は、グループ会社のプレテック(同、矢山勝司社長)大阪工場が関西圏を中心にプレカット加工を行っている。現在、月間平均加工坪数は4000坪(構造材、羽柄材)で、そのうち戸建て住宅90%、非住宅10%と戸建て住宅向けの加工が多くを占めている。また、九州圏では関連会社のプレテック福岡(福岡県朝倉市)が、商業店舗など非住宅向け加工も行っている。設備投資では、プレテック大阪工場の柱材加工機が設置から約15年が経過するなど若干老朽化が進んできたため、3月に新型の全自



プレテックに導入されたサイディングプレカット加工機

動柱材加工機(MPS) 1・4倍に能力が向上した。今回の設備入れ替えで、同社の加工能力月産5500坪(人手十機械能力)は変わらないものの、機械能力だけで見ると最大で月産6000坪とな

面の面加工軸による材の横転の減少や、下ホソ用位置決めストッパーによる次加工材の待機など数々の新機構の開発により加工能力が格段に向上。これにより加工内容による多少の差異は、平均で約1・4倍に能力が向上した。今回の設備入れ替えで、同社の加工能力月産5500坪(人手十機械能力)は変わらないものの、機械能力だけで見ると最大で月産6000坪とな

一方、サイディング加工機は顧客である住宅会社の意向や、将来的にSDGsの観点から現場での省施工や端材をなくすなどの動きが高まることへ対応した。機械性能はサイディングの切断、欠き加工、印字を行う。特に定番の下側にMIP型印字装置を配置し、サイディングの裏面に印字する。また、よりスムーズに送材できる送材装置を採用している。サイディングプレカットは当初月間約5棟を計画しており、今後は当面月間20棟を目指すという。「サイディングは徐々に注文が増えてきている」(同社)という。